

平成 2 7 年度
「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立九条北小学校

平成 2 8 年 2 月

◎学校教育目標

人間性豊かで 実践力のある児童の育成をめざす。

(校訓)

・よく考える子(知) ・すなおな子(徳) ・がんばる子(体)

知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育成する。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○児童アンケートにおいて、「調べ学習の方法を身につけることができたか」では、低・高学年とも一定の成果が見られた。しかし、「授業がわかりやすいと思う児童を85%以上にする」では、数値目標を4ポイント下回り、学習が「わかりやすくて楽しい」と回答する児童の割合が、学年が上がるほど低くなる傾向が明らかになった。そこで、デジタル教科書や書画カメラ、プロジェクターなどのICT機器を活用して、児童の興味・関心を高め、全教員の授業研究などで授業力の向上を図り、児童が「わかりやすい」と思う授業の構築を一層目指す必要がある。

○全国学力・学習状況調査及び学習理解度到達診断においては、依然として国語科に課題が見受けられ、このことから言語力の育成に焦点をあてた国語科の授業研究を継続して取り組み、国語科の基礎・基本の定着を図っていくとともに、伝えあう力の一層の育成が必要である。

○学校生活における規範意識や相手の気持ちを考え、仲良く助け合おうとすることに課題が見受けられるので、児童会活動と学級活動を密接に結び付け、学年に応じた役割分担を明確にしていく。また、言葉遣いアンケートの活用や道徳・人権教育の充実を図り、あらゆる場を通して「相手の気持ちを考える」意識を高めていく指導に努める。

○「歯みがき・手洗い・うがい」について、それぞれ分けて焦点を絞り、学期ごとに重点的に取り組めるようにするとともに、保健だより等で保護者への啓発を行い、児童自らが進んでできるように習慣化を図っていく必要がある。

中期目標

【視点 学力の向上】

○平成27年度末の児童アンケート「授業で自分の意見をまとめたり、発表したりすることができる」と答える児童の肯定的回答率の割合を70%以上にする。

○平成27年度末の学習理解度到達診断(国・算)における通過率をいずれの学年も80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)(マネジメント改革関連)(ガバナンス改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

○平成27年度末の児童アンケート「相手の気持ちを考え、仲良く助け合って活動している」と答える児童の肯定的回答率の割合を90%以上にするとともに、「よくあてはまる」と答える児童の割合を50%以上にする。

(カリキュラム改革関連)(マネジメント改革関連)(ガバナンス改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○平成27年度末の児童アンケート「手洗い・うがい・歯みがき・爪切りを進んでしている」と答える児童の肯定的回答率の割合を90%以上にする。

(カリキュラム改革関連)(マネジメント改革関連)(ガバナンス改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

児童アンケートにおいて

○調べ学習の方法を身につけることができたか。(低学年85%を目標とする。)

○ICTを活用した調べ学習の方法を身につけることができたか。(高学年80%を目標とする。)

○授業がわかりやすいと思う児童を85%以上にする。

(カリキュラム改革関連)(マネジメント改革関連)(ガバナンス改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

児童アンケートにおいて、以下の項目で肯定的回答率の割合が()内以上になるようにする。

○「児童会活動や学級会活動では、相手の気持ちを考えながら工夫して活動している。」(85%)

○「廊下、階段を正しく歩き、安全に気をつけている。」(80%)

○「相手の気持ちを考え、仲良く助け合って活動している。」(85%)

○「学校が美しくなるように掃除などをがんばっている。」(85%)

(カリキュラム改革関連)(マネジメント改革関連)(ガバナンス改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○児童アンケートで「手洗い・うがい・歯みがき・爪切りを進んでしている」と答える児童の肯定的回答率の割合を90%以上にする。

(カリキュラム改革関連)(マネジメント改革関連)(ガバナンス改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

○「調べ学習の方法を身につけることができたか」では年度目標の85%、「ICTを活用した調べ学習の方法を身につけることができたか」では8ポイント、年度目標を上回ることができた。「授業がわかりやすいと思う児童を85%以上にする」では、1ポイント下回った。図書室の本の活用やインターネットの使用、インタビューなどを通して、調べ学習の方法を身につけることができた。全校で視写に取り組むことで、ノートを丁寧に速く書ける児童が増えた。また、国語科で「書く活動」を多く取り入れ指導してきた結果、文章を書くことに自信をもって取り組む児童が増えた。年間指導計画をもとに、学年の実態に応じたパソコン室での学習に取り組むことができるとともに、書画カメラ、プロジェクターなどを利用した授業を行うことができた。6年間を通しての系統立てた「総合的な学習の時間」の年間計画を検討するとともに、タブレット導入に伴い、研修の充実及びより効果的なICT機器の活用方法も検討していく。

中期目標である「授業で自分の意見をまとめたり、発表したりすることができる」では、10ポイント目標を上回ることができた。今後も児童の主体的な学びを実現するための授業の構築を図っていく。

【視点 道徳心・社会性の育成】

○年度目標「児童会活動や学級会活動では、相手の気持ちを考えながら工夫して活動している」で2ポイント、「相手の気持ちを考え、仲良く助け合って活動している」で年度目標の85%、「学校が美しくなるように掃除などをがんばっている」では2ポイント上回った。「廊下、階段を正しく歩き、安全に気をつけている」で2ポイント目標を下回った。

児童会活動では、高学年を中心に自主的に活動を計画的に行っていた。また、たてわり班活動やクラブ活動において、高学年を中心に下の学年とも協力して活動したり、サポートしたりする様子が見られた。委員会活動による廊下歩行の取り組みを有効であったので、今後も、児童会と連携して指導していく。年間指導計画に沿った道徳教育の推進、言葉遣いアンケートやいじめアンケートをもとに学級の実態に合わせた指導を進めたので、相手の気持ちを考える意識を高めることができた。言葉遣いアンケートの内容を検討し、児童が振り返られるようなものにしていく。委員会児童によるピカピカチェックや掃除用具の点検を定期的に行ったことは効果的であった。清掃週間を計画通りに実施し、振り返りカードを指導に生かすことができた。バケツのごみの処理の仕方、トイレの清掃状況のチェックを今後工夫していく。

中期目標達成に向けて、言葉遣いアンケートの一層の活用及び互いのよさや違いを認め合い助け合って活動できる集団育成によって、道徳・人権教育の充実を進める。そして、あらゆる場を通して「相手の気持ちを考える」意識を高めていく指導に努める。

【視点 健康・体力の保持増進】

○「手洗い・うがい・歯みがき・爪切りを進んでしている」で3ポイント目標を下回った。保健強調週間では、「ほけんがんばりカード」の活用、手洗いの歌の放送などの取り組みを行ってきたので、手洗いやうがい、給食後の歯みがきの習慣が身についた。また、朝の健康観察での確認や発育測定での保健指導は効果的であったので、今後も継続して取り組んでいく。

中間目標達成に向けて、保健だよりなどによって、保護者への更なる啓発を行うとともに、習慣化できていない児童への個別の声かけに努めていく

大阪市立九条北小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート) 1

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおり達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組みもせず目標も達成できなかった

年度目標		達成状況	
【視点 学力の向上】 児童アンケートにおいて ○調べ学習の方法を身につけることができたか。（低学年８５％を目標とする。） ○ＩＣＴを活用した調べ学習の方法を身につけることができたか。 <div style="text-align: right;">（高学年８０％を目標とする。）</div> ○授業がわかりやすいと思う児童を８５％以上にする。 <div style="text-align: center;">（カリキュラム改革関連）（マネジメント改革関連）（ガバナンス改革関連）</div>	達成率	評価基準	B
	85		
	88		
	84		

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【教科・総合的な学習の時間】</p> <p>◎基礎的・基本的な内容の定着を図る。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>◎各学年に応じた言語活動の内容を工夫する。 (マネジメント改革関連)</p> <p>◎課題解決に向けて主体的に学ぶ子どもを育てる。 (ガバナンス改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇基礎学力の向上を図るため、朝学習などで計算や漢字、音読や視写など内容を工夫して継続的に取り組む。</p> <p>◇国語科における「書くこと」に関する活動を充実させる。</p> <p>◇体験活動を生かした授業展開を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立科学館・大阪歴史博物館の見学の実施 ・地域人材を活用した地域の町工場や商店街の見学、福祉体験等の実施 ・芸術鑑賞の実施 ・スポーツ交歓会や区音楽交流会への参加 	B
<p>取組内容②【授業研究を伴う校内研修の充実】</p> <p>◎「自分の思いや考えをすすんで表現する子どもを育てる」ための指導法の研究。</p> <p>◎授業研究を行い、指導法の研究に努める。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇全教職員の共通理解のもと、研究主題を設定し、継続研究を行う。</p> <p>◇指導力向上に向けた校内研修を年間7回以上行う。</p> <p>◇教員全員が年間1回以上の授業研究を行う。</p>	A

取組内容③【ＩＣＴを活用した教育の推進】 ◎授業の中で効果的なＩＣＴの活用を図る。 (カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)	B
指標 ◇情報教育年間計画を作成し、学年の実態に応じたパソコンルームを活用した授業について工夫を図る。 ◇全ての学年・学級でＩＣＴを活用した授業実践を工夫する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ○ 児童アンケートにおいて、「調べ学習の方法を身につけることができたか」では、低学年が８８％で達成することができた。また、図書室の本やインターネットの使用、インタビューなどを通して、調べ学習の方法を身につけることができた。 ○ 「授業がわかりやすいと思う児童を８５％以上にする。」との目標に対して、数値目標が１ポイント下回った。低学年からの内容理解、積み重ねのために個別支援等も必要である。 ○ ＩＣＴの活用については、学年によってばらつきがみられる。情報教育年間指導計画をもとに、学年の実態に応じた、指導を計画的に行う必要がある。	
【取り組み内容①】について ○ 全校で視写に取り組むことで、ノートを丁寧に速くかける児童が増えた。また、国語科で「書く活動」を多く取り入れ指導してきた結果、文章を書くことに自信をもって取り組む児童が増えた。	
【取り組み内容②】について ○ 計画通りに授業研究を行い、指導法の向上に努めることができた。 ○ 区の教員研究発表会に向けて、教職員が授業研究に積極的に取り組むことができた。 ○ 研究主題「自分の思いや考えをすすんで表現する子どもを育てる」ために、みんなの前で発表する機会を多く持つようにした。発表の仕方がわかってきた児童が増えた。	
【取り組み内容③】について ○ 年間指導計画をもとに、パソコン室での学習に取り組むことができた。学年ごとの課題も明確であった。例えば、パソコン室の利用方法、機器の名称、電源の入れ方など、学年の実態に応じた学習を行うことができた。 ○ 書画カメラ、プロジェクター、タブレット等を活用した授業を行うことができた。フラッシュカードや絵本、保健指導での活用など、視覚支援に非常に効果的であった。	
次年度への改善点	
【年度目標】について ○ 今年度のふりかえりをもとに「総合的な学習の時間」の年間計画の見直しを行う。６年間を通しての系統立てた指導計画を検討していく。	
【取り組み内容①】について ○ 個別に支援が必要な児童への細やかな指導のあり方について考えていく。また、教育委員会から出ている低中高別の「学習の手引き」を配布して、啓発していく。そして、毎日の課題ができてい	

ない児童への支援と学習定着のために、家庭と連携を図っていく。

【取り組み内容②】について

- アンケートを実施し、適切な研究主題を設定し、今後も授業研究に取り組んでいく。

【取り組み内容③】について

- タブレット導入に伴い、活用方法など、情報教育担当を中心に研修等を積極的に行う。より効果的な ICT 機器の活用方法を検討していく。
- 各教科のどの単元、どの場面でパソコン室を利用したり、ICT 機器を活用したりするのか、年間指導計画の見直しを行う。

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおり達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組みもせず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況	
【視点 道徳心・社会性の育成】 児童アンケートにおいて、以下の項目で肯定的回答率の割合が（ ）内以上になるようにする。 ○「児童会活動や学級会活動では、相手の気持ちを考えながら工夫して活動している。」 (85%) ○「廊下、階段を正しく歩き、安全に気をつけている。」(80%) ○「相手の気持ちを考え、仲良く助け合って活動している。」(85%) ○「学校が美しくなるように掃除などをがんばっている。」(85%) (カリキュラム改革関連)(マネジメント改革関連)(ガバナンス改革関連)	達成率	評価基準
	87	B
	78	
	85	
	87	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【特別活動】 ◎児童会活動や学級会活動では、児童の主体性を養い、学校・学級生活の充実と向上を図るために、工夫して活動できるようにする。(カリキュラム改革関連)(マネジメント改革関連)	B
指標 ◇各委員会で協力して廊下歩行指導を行っていく。 ◇全校オリエンテーリング等の学校行事を企画し、児童の主体性を養う。 ◇活動前に、リーダー会議を行い、活発な話し合い活動ができるようにする。	
取組内容②【安全教育の推進】 ◎日々の指導や廊下歩行の指導、せいかつ週間、看護当番の設定によって正しい歩行と身だしなみ(黄帽・名札・服装)を整えることができるようにする。(マネジメント改革関連)	B
指標 ◇歩行指導週間を設け、児童会活動と連携しながら、子どもたちが主体的に正しい歩行ができるようにする。 ◇毎日の看護当番により身だしなみが整うようにする。	
取組内容③【道徳教育の推進】 ◎相手の気持ちを考え、仲良く活動しようとする心を育てる。(カリキュラム改革関連)	B
指標 ◇道徳副読本やわたしたちの道徳をはじめ言葉遣いに関する内容を学期ごとに組み入れた年間指導計画を作成し、道徳教育を充実させる。 ◇言葉遣いアンケートを年2回(5.1月)に実施し、実態に合わせた指導を年間を通して進	

<p>めていく。</p> <p>◇児童会活動や学級活動の中で「相手の気持ちを考える」ことができるような工夫した活動を取り入れる。</p>	
<p>取組内容④【人権を尊重する教育の推進】</p> <p>◎道徳・人権教育年間計画に沿って、各学年が実際に取り組み互いの良さや違いを認め合い助け合って活動できる集団の育成に取り組む。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <p>◇学期に一単元（３～５時間）各学年が人権教育に取り組む。</p> <p>◇年に一回実践報告会・人権教育研修会を行う。</p> <p>◇支援を要する児童の実践交流会を年に２回行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【美化・環境整備】</p> <p>◎掃除用具を丁寧に使って、隅々まできれいにし、道具を元の場所に戻す。 (カリキュラム改革関連) (ガバナンス改革関連)</p> <p>指標</p> <p>◇定期的に、掃除道具の数を点検するとともに、委員会による掃除点検も引き続き行っていく。</p> <p>◇年１回、清掃週間を設け、カードを用い、清掃の様子について振り返り指導に生かす。</p> <p>◇土曜授業を活用し、保護者の協力のもと、ふれあい清掃を実施する。</p> <p>◇学級数が減少したので、掃除場所のわりあてを全体を網羅しつつ、学級の実態に応じて柔軟に取り組む。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <p>○ 年間を通して、計画通りに行われた。高学年を中心に自主的に活動を行っていたため、達成率が目標の８５％を２％上回り、８７％となった。</p> <p>○ 児童アンケートの結果「廊下、階段を正しく歩き、安全に気をつけている。」（目標８０％）を若干下回る７８％であった。低学年に比べ、高学年での意識が低かった。</p> <p>○ 年間指導計画に沿った道徳教育や人権教育を進めたり、アンケートをもとに子どもの実態に合わせた指導を継続的に行ったりすることで、達成率は８５％となり目標を達した。</p> <p>○ 掃除用具の使い方や片付けは、点検により適切に行われていた。しかし、掃除の仕方は隅々まで行き届いていないときもあった。</p> <p>【取組内容①】について</p> <p>○ 児童会活動は、年間を通して計画通りに進められている。たてわり班活動やクラブ活動において、高学年を中心に下の学年とも協力して活動したり、サポートしたりする様子が見られた。</p> <p>【取組内容②】について</p> <p>○ 委員会児童による廊下歩行の取り組みは有効であったと考えられる。児童同士の声かけにより、廊下歩行を意識できる児童が増えた。その結果が、アンケートの数値にも反映されている。</p> <p>○ 廊下指導期間だけ意識が高いように感じられた。それ以外のときには、まだ廊下を走る姿がみられる。また、帽子や名札など、身だしなみについてはできていない児童は限られている傾向が高く、個別の声掛けが必要である。</p>	

【取り組み内容③】について

- 年間指導計画に沿って道徳教育を進めたり、あらゆる時間で相手の気持ちを考えさせたりする取り組みを継続的に進めることができた。
- 言葉遣いアンケートやいじめアンケートをもとに学級の実態に合わせた指導を進めることで、相手の気持ちを考える意識を高めることができた。

【取り組み内容④】について

- 児童理解実践交流会を定期的に実施することで、配慮を要する児童について、全教職員で共通理解を図ることができている。
- 教育活動全体の中で、さまざまな声かけや指導を重ね、児童自身が考えて行動できるように取り組んでいる。また、友だちのよさを発表する場を設け、互いを認め合うことの大切さに児童が気付けるような教育活動を行うことができた。

【取り組み内容⑤】について

- 委員会児童によるピカピカチェックや掃除用具の点検を定期的に行ったことは効果的であった。
- 清掃週間を計画通りに実施し、振り返りカードを指導に生かすことができた。
- 土曜授業でふれあい清掃を行った。
- 掃除分担場所を回数や場所を工夫しながら、各学級で取り組むことができた。

次年度への改善点

【年度目標】について

- 最近の傾向として、児童アンケートでは学年が上がるにつれて達成率が下がっている。高学年の結果の理由としては、自主的にまとめて活動する機会が低学年に比べて多いことが考えられる。低学年・中学年の結果の理由としては、活動をすることや異学年で交流する楽しさを味わうことができているからだと考えられる。低学年・中学年・高学年が各々自主的に活動する機会を増やすことで、充実した活動が展開できると思う。
- 今年度と同様、引き続き継続した目標を設定する。
- 仲良く活動できる集団育成のために実態に合わせた指導を継続して行ってきたことで、相手の気持ちを考える意識を高めることができた。次年度は、相手の気持ちを考えた行動や言葉掛けが様々な場面で多く見られるようにしていく。
- 隅々まで掃除できるように、掃除用具の使い方を引き続き指導していく。

【取り組み内容①】について

- 児童が主体的に取り組んでいる姿も多く見られたが、子どもたちだけではできていないこともあったので教師の見守り、声掛けも必要である。

【取り組み内容②】について

- 廊下歩行については、今年度と同様、児童会と連携して指導していく。また、指導週間だけでなく危ない行動をしている児童には随時指導していくことで意識を高める。また身だしなみについても、意識週間を設けるなど、児童の意識を高めまた指導の入らない児童には、学校だけでなく家庭にも連絡等して連携した指導をしていく必要がある。

【取り組み内容③】について

- 言葉遣いアンケートの内容を検討し、児童が振り返られるようなものにする。
- 学級やたてわり班などの場面で、相手の気持ちを思いやることのできるような言葉遣いを考えさせるような指導の工夫をする。

【取り組み内容④】について

- 引き続き児童理解実践交流会を行い、全教職員で児童について共通理解を図っていくようにする。
- 児童会活動だけでなく、教育活動全体を通して、児童が互いのよさを認め合う場を継続して設定するようにする。

【取り組み内容⑤】について

- 委員会によるピカピカチェックを引き続き行う。
- ふれあい清掃は今後も続けていく。また、特別教室の掃除も行うことも検討する。
- 廊下・階段のゴミをバケツにいれたあと、バケツのゴミの処理を行えるように考える。トイレの清掃状況のチェックも工夫していく。

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおり達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組みもせず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況	
【視点 健康・体力の保持増進】 ○児童アンケートで「手洗い・うがい・歯みがき・爪切りを進んでしている」と答える児童の肯定的回答率の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連) (ガバナンス改革関連)	達成率	評価基準
	87	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗 状況
取組内容【健康的な生活習慣の確立】 ◎手洗い・うがい・歯みがき・爪切りを進んでできるようにする。 <div>(カリキュラム改革関連) (ガバナンス改革関連)</div>		A
指標 ◇毎朝の健康観察のときに、歯みがき・爪切りの確認をする。 ◇学期に1回ずつ取り組む保健強調週間の内容を工夫する。 ◇保健だよりを毎月配付したり、保健がんばりカードに保護者確認欄を設けたりすることで、保護者への啓発を図る。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ○ 児童アンケートで「手洗い・うがい・歯みがき・爪切りを進んでしている」と答える児童の肯定的回答率は、昨年度末で83%、今年度の中間評価では86%と、少しずつ上がってきてはいるが、今年度末は87%となり、目標の90%を達成することができなかった。		
【取り組み内容①】について ○ 毎朝の健康観察では、歯みがきや爪切りの確認をした。また、保健強調週間では、「ほけんがんばりカード」を活用したり「手洗いの歌」を放送したりすることで、手洗いやうがい、給食後のはみがきの習慣が身についた。また、爪切りや手洗いについての保健指導を行い、手を清潔にすることの大切さについて、あらためて理解することができた。保健だよりを毎月発行したり、ほけんがんばりカードを確認してもらったりと、保護者への啓発を図ることができたが、決まった児童ができていないため、個別に声掛けをする必要がある。		

次年度への改善点

【年度目標】について

- それぞれの取り組みによって達成率は上がってきている。手洗い・うがいについては学校で直接指導できるが、爪切り・歯みがきについては家庭での協力が必要となり、評価が難しい。

【取り組み内容①】について

- 手洗いやうがいについては習慣化できている。今後も保健強調週間の取り組みを続けていく。
- 健康観察での歯磨き・爪切りの確認は学級全体での意識としてよかったので、継続して行うとよい。しかし、家庭での習慣化が大切なので、保護者への啓発がまだまだ必要である。
- 発育測定での保健指導も継続して行うとよい。また、寒い季節には、風邪予防のためにも、手洗い、うがいの指導を強化する必要がある。